

プロスポーツ等と連携した子どもたちの体力づくりに関する取組

1 本道児童生徒の状況 <平成27年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査より>

区分		小学校男子	小学校女子	中学校男子	中学校女子
新体力テスト	体力合計点(点)	全道 52.67 全国 53.80	全道 53.56 全国 55.18	全道 40.10 全国 41.89	全道 44.83 全国 49.03
	運動やスポーツをすることが好きと回答(%)	全道 76.7 全国 74.0	全道 59.3 全国 56.4	全道 69.4 全国 65.0	全道 51.9 全国 48.0
児童生徒質問紙調査	1週間の総運動時間が60分未満と回答(%)	全道 7.4 全国 6.6	全道 13.9 全国 12.9	全道 9.9 全国 7.1	全道 24.2 全国 20.9

【概要】

- ・新体力テストの結果では、一部の種目(小中学校男女の握力・小学校男女のソフトボール投げ)で全国平均を上回っているものの、体力合計点は依然として全国平均よりも低い状況。
- ・質問紙調査では、小中学校の男女いずれも、「運動やスポーツをすることが好き」と回答した割合は全国平均を上回っているが、「1週間の総運動時間が60分未満」が全国平均よりも高い状況となっており、運動習慣の定着が課題。

2 体力向上パートナーシップ形成事業

【内容】道内のプロスポーツクラブや大学等と連携し、指定校に対して専門性を生かした、楽しく運動に取り組むことができる運動プログラムの開発及び提供を行う。

開発した運動プログラム

※指定校は小学校14校

北海道日本ハムファイターズ	ボール等を使った種目特有の動き方を楽しむ運動プログラム
レバンガ北海道	バスケットボールを用いたドリル
コンサドーレ札幌	ボールを使った全身運動を楽しむプログラム
エスポラーダ北海道	ボールを使った運動プログラム
北海道教育大学	バルシューレ～ボール運動の基礎～
北翔大学	紙ボール投げ、みんなdeオセロサーキット、カンガルーの遠足
A-bank北海道	バレーボールを使った運動プログラム
NPOよりづかちよイスポ倶楽部	基本的な運動プログラム(体幹トレーニング、ストレッチ)

【成果】

- ・休み時間などにも本プログラムをやってみようとする児童の姿が見られ、主体的に体を動かす児童が増えた。
- ・協力して楽しみながら運動する姿が見られ、運動や遊びが好きな児童が増えた。
- ・調査において「運動が好き」や「体育の授業が楽しい」と回答する児童の割合が増えた。

【今年度の取組】

- ・実践研究2年目として年間を通じた教育活動として実施し、プログラムを活用した特色ある取組を実践
- ・中学生を対象としたダンスプログラムを開発し、中学校を指定校として実践研究の実施
- ・運動プログラム・実践研究事例集の作成及び配布、Webでの発信などによる普及啓発

3 どさん子元気アップチャレンジ

【内容】児童生徒が手軽な運動の実践を通して運動に親しみ、体力の向上を図り楽しく運動を行う態度を身に付けることをねらいとし、各地域で実施している運動やスポーツの取組を広く紹介したり、プロスポーツクラブや企業と連携を図った取組を推進する。

①【どさん子元気アップチャレンジ：短縄跳び全道大会】

3分間の制限時間内に1回跳び(1回旋1跳躍)を連続して跳んだ回数を競う。

- ・学校での取組の「学校部門」と家庭や地域等での取組の「家庭・地域等部門」の2部門を実施
 - ・実施した記録をメール等で道教委へ送付し、道教委は記録の集計、Webページへの掲載、上位の子どもを表彰
- ◎参加校数等 小学校～H27:480校(53.9%)延べ14,643人 中学校～H27:191校(37.2%)延べ470人

②【プロスポーツクラブとの連携：なわとび選手権】

- ・11/1 札幌ドーム：コンサドーレ札幌 9/5、11/8 北海きたえーる：エスポラーダ北海道
- ・低学年の部、高学年の部のそれぞれの優勝者には、賞品(プロチームの記念ボール)を贈呈

4 どさん子体力アップ強調月間

北海道と北海道教育委員会では、毎年10月を「どさん子体力アップ強調月間」として設定し、道内各地域において、運動やスポーツの楽しさを実感できる機会の充実を図るとともに、子どもたちが、日頃から運動やスポーツに親しみ体力向上に取り組む環境づくりを推進する。

